

備前市事務事業評価表

(平成17年度事業)

事務事業名	じん肺患者見舞金事業		コード	保健課健康係
			02-02-05-02	担当者 白髭 由美子
事業実施期間	昭和49年10月1日～		電話	64-1820
総合計画 事業(政策)体系	大項目	健康でやさしさあふれるまちづくり		
	中項目	健やかで生き生きしたまちづくり		
	小項目	結核・じん肺		
	施策	健康教育の推進		

事業について	
目的	じん肺患者に対して、療養を見舞うためのじん肺患者見舞金を支給し、さらに今後の健康管理の推進に努める。
対象 (誰のために)	・じん肺管理区分4の決定を受けている者 ・じん肺管理区分2又は3でじん肺と合併した肺結核、その他じん肺の進展経過に応じてじん肺と密接な関係にある合併症があり、療養を要すると決定された者
内容	月額1,300円の見舞金の支給、健康増進講習会の開催

事業の結果	
実施項目	17年度
	回数など (単位)
見舞金支給人数	672 人
講習会開催回数	1 回

事業費 (単位:千円)	事業費		財源		事業費		財源	
	直接事業費	10,697	国県補助金等	3,369	直接事業費		国県補助金等	
	人件費	2,415	受益者負担		人件費		受益者負担	
	合計	13,112	市債		合計	0	市債	

必要人員	0.30 人
結果指標①	
結果指標名	講習会参加人数
結果指標量	180
単位	人
対前年比	0.00%
事業費	13,112,000 円
単位当たりコスト①	72,844 円

結果指標②	
結果指標名	見舞金支給人数
結果指標量	672
単位	人
対前年比	0.00%
事業費	13,112,000 円
単位当たりコスト②	19,512 円

事業の成果			
成果指標名	講習会参加率 (%)	式又は説明	参加人数/見舞金支給人数 (対象者数)
	17年度		
成果指標量	27		
対前年比	0.00%		
到達目標値	35	到達目標年度	平成20年度

事務事業の評価		課題認識
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	耐火物等の市の主要産業に起因するじん肺患者に対して、その療養を見舞い、健康管理の推進を支援することは、市として実施すべき事業である。
	対象の妥当性	
	市民ニーズの妥当性	
効率性の評価	コストの効率化	高齢化に伴い、合併症を併発し新規に認定を受ける患者と、死亡等で資格喪失する患者が近い数であり、1人当たりのコストは、ほぼ横ばいである。なお、市は、見舞金の1/3に相当する額の負担金を関係企業団体から受けている。
	手段の最適化	
	職場の効率化	
有効性の評価	目的達成度	講習会参加者は、高齢化や体調によりある程度限られた人となっている。今後、患者本人のみでなく、家族や一般市民にも講習会への参加を呼びかけ、疾病に対する理解を深め、健康管理の推進へとつなげたい。
	成果向上の可能性	
	市民参画度	

総合評価	
コメント	市として実施すべき事業であり、現時点における事業はある程度順調に進んでいると思われる。今後、対象者数の推移等を見た上で事業の方向性を検討する必要がある。
評価区分	<A~E> C

今後の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する <input type="checkbox"/> 完了・統合
翌年度 結果指標量①	200人
結果指標量②	680人
目標値 成果指標量	29パーセント

改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
有効性	家族・一般市民も興味をもてる講演内容にし、参加の呼びかけをする。	8月	参加者の幅が広がり、疾病への理解が深まる。

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。